

第 10 回須坂新校再編実施計画懇話会

日時：令和 5 年 3 月 13 日（月）

18 時～19 時 30 分

会場：須坂市生涯学習センター 3 階 ホール

<次 第>

1 開 会

2 挨 拶

3 新構成員自己紹介

4 会議事項

(1) 「第 9 回須坂新校再編実施計画懇話会」まとめと意見聴取の報告

(2) 学びのイメージ（修正原案）の説明

(3) 学びのイメージ（修正原案）に関する討議

5 その他

<次回の予定>

(1) 第 11 回須坂新校再編実施計画懇話会

(日時) 令和 5 年 4 月を予定

(会場) 須坂市生涯学習センターを予定

(内容) 再編実施基本計画に関する事項（募集開始年度、募集学級数等）
について

6 閉 会

須坂新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

○は新構成員

区分	氏名	所属等
1	三木 正夫	須坂市 市長
2	新井 隆司	小布施町 副町長
3	藤沢 敏和	高山村 副村長
4	小林 雅彦	須坂市教育委員会 教育長 (座長)
5	春原 博	須坂商工会議所 専務理事
6	神戸 佳代	小布施町商工会 女性部長
7	久保 正直	アスザック株式会社 代表取締役社長
8	浅井 洋子	須坂東高等学校同窓会 会長
9	霜田 剛	須坂創成高等学校同窓会 副会長
10	半田 志郎	国立大学法人信州大学工学部 特任教授
11	坪井 育美	須坂東高等学校PTA 会長
12	鈴木 勝	須坂創成高等学校PTA 会長
13	島田 千春	上高井郡市PTA連合会 副会長
14	坪井 扶司夫	上高井校長会 代表 (墨坂中)
15	新井 孝之	上高井校長会 代表 (日野小)
16	中坪 成海	長野地域振興局長
17	二ノ宮 邦彦	元 県立高等学校長
18	大宮 透	元 慶応SDM・小布施町ソーシャルデザインセンター主任研究員
19	○ 堀内 煌大	須坂東高等学校生徒会 会長
20	○ 関 怜士	須坂東高等学校生徒会 副会長
21	○ 山口 隼	須坂創成高等学校生徒会 会長
22	○ 木村 友香	須坂創成高等学校生徒会 副会長
23	宮尾 悟良	須坂東高等学校長
24	山岸 暢	須坂東高等学校 教諭
25	羽山 功	須坂創成高等学校長
26	小林 英司	須坂創成高等学校 教諭

事務局

須坂東高等学校		須坂創成高等学校		高校再編推進室	
宮下 由夫	教頭・副事務局長	峯村 勲	教頭・事務局長	山岸 明	主幹指導主事
嶋田 順一		小林 英司		高野 幸子	課長補佐
酒井 健次		柳澤 亘		有坂 清明	主任指導主事 (須坂新校担当)
山岸 暢		山口 新一			
高坂 亨		辻 隆秀			

第9回 須坂新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日時	令和5年1月20日(金) 18時00分～19時30分		
場所	須坂市生涯学習センター 3階 ホール		
出席 (敬称略)	三木 正夫, 新井 隆司, 小林 雅彦, 春原 博, 久保 正直, 浅井 洋子, 霜田 剛, 半田 志郎, 坪井 育美, 鈴木 勝, 新井 孝之, 中坪 成海, 二ノ宮 邦彦, 畔上 大空雅, 内田 陽菜, 丹下 駿, 望月 梨々音, 宮尾 悟良, 山岸 暢, 羽山 功, 小林 英司 (以上21名)		
欠席 (敬称略)	藤沢 敏和, 神戸 佳代, 島田 千春, 坪井 扶司夫, 大宮 透	傍聴者	5名
事務局	須坂東高校	宮下 教頭(副事務局長), 嶋田 教諭, 酒井 教諭, 山岸 教諭, 高坂 教諭	
	須坂創成高校	峯村 教頭(事務局長), 小林 教諭, 柳澤 教諭, 山口 教諭, 辻 教諭	
	県教育委員会	山岸 主幹指導主事, 高野 課長補佐, 有坂 主任指導主事	
当日資料	次第, 第8回須坂新校再編実施計画懇話会まとめ(案), 学びのイメージ(原案), ここまでに出された意見 【別添資料】小諸新校再編実施基本計画, 伊那新校再編実施基本計画		

会議事項

- (1) 第8回須坂新校再編実施計画懇話会のまとめ(案)について
- (2) 学びのイメージ(原案)の説明
- (3) 学びのイメージ(原案)に関する討議

構成員から出された主な意見(要旨) (⇒県教委回答)

<専門科と普通科の連携について>

- 普通科と専門科の連携という理念は良いが、連携のイメージが湧かない。学科連携の仕組みづくりが大事。
- 専門科と普通科がお互いに刺激しあっていいところを学んでいくと捉えると、いいと思う。学科間の連携で色々な学びをした視点を、他学科に提供して交流していくとすることができればよい。
⇒地域課題の探究などで分野を超え、様々な生徒が様々な観点から考えていくということが連携の中心となっていくと想定している。

<デジタル教育、情報教育について>

- 情報教育をこの機会に充実させる必要がある。情報教育の充実自体が子どもたちにもプラスになる。
- プログラミングは新しい指導要領でも小中から取り入れられている。そこを引き継ぐ学科を持ってないか。
- 教育にデジタルを取り入れることはやっていただきたいと思うが、学科までデジタル科という形でいれていくのは行き過ぎであると思う。
- 情報教育に力点を置いて進めていくことも良いと思うし、生活していく上で様々な視点をもって考えていく手段の一つとして情報を学んでいくという方法もあると思う。
- 須坂市出身の名古屋大学遠藤先生にDXのありかたについて率直に聞いてみることも必要だと思う。
⇒様々な観点から情報、デジタル等の御意見をいただいている。学科を作るチャンスであるというご意見から、そこまでするものではないといったご意見まである。本日学びのイメージを完成出来たらよいと考えていたが、一回引き取り再検討させていただきたい。

その他

【次回】

日時：令和5年2月の実施を予定
会場：須坂市生涯学習センター を予定
内容：新校の学びのイメージ(修正原案)に関する討議

デジタル教育に係る意見聴取の結果について

1 鳴門教育大学大学院教授 藤村 裕一 先生

①日 時 令和5年1月23日(月) 17:00～17:30

②場 所 須坂東高校校長室

③参加者 藤村教授、小林座長、宮尾須坂東高校長

④内 容 (藤村先生発言要旨)

- ・情報教育については、情報科として取りあげるのではなく、いろいろな教科の中でやっていく方が良いのではないか。グループ学習等でタブレットを利活用することにより、それが進められる。
- ・情報科を設置する場合、教員だけでは最先端のものはできない。企業とタッグを組むことが必要。しかも世界レベルの企業と組まないと本当の意味での情報科はできない。

2 名古屋大学准教授 遠藤 守 先生

①日 時 令和5年1月31日(火) 15:30～16:50

②場 所 オンライン

③参加者 遠藤准教授、三木須坂市長、小林座長、中村須坂市学校教育課長、宮尾須坂東高校長、羽山須坂創成高校長、有坂高校再編推進室主任指導主事

④内 容 (遠藤先生発言要旨)

- ・デジタルの力をどう活用していくか、生徒にそれをどう学んでもらうか。
- ・要所でデジタルを織り交ぜる必要がある。
- ・デジタル利活用はあくまでも手段。地域が抱えている課題をデジタルの利活用で解決に導いていく。探究にデジタルの力を借りることが大切。
- ・デジタル利活用については学校の中だけではおさまらない。地域の支援が必要で、それをきちんと位置付けることが必要。
- ・デジタルに係る研修は先生だけではなく、地域とともにやる。
- ・日常的に地域の人と関われる場をつくり、教員も子どもも一緒に地域へ出る。

須坂新校学びのイメージ（修正原案）

《実社会の課題と向き合い、地域を学びの場に成長し続ける高校》

育てたい生徒

- 探究的な学びをとおして、課題発見・解決能力を育み、自分の未来をデザインできる生徒
- 学びあいをとおして、他者や社会と主体的に協働できる、コミュニケーション力を持った生徒
- 多様な他者をつなぎ、新たな価値を生み出し、より良い社会実現のために学び続ける生徒

新校での学び

- 専門科の学びを保証したうえで、学科・学年を超えた学びと個別最適な学びを実現する単位制を導入
- 地域を学びの場とし、地域と学ぶ探究活動
- 専門科と普通科の連携により新しい発想や価値を創造
- 学びと社会、学びと自分の生き方をつなぐキャリア学習
- 生徒の主体性を育む自主活動（生徒会活動・部活動）の充実

専門科（総合技術）

総合技術×普通科

みらいデザイン科（仮称）

情報リテラシーを徹底して学習し、いつでも、どこでも、制限なしに ICT を利活用
 実体験をとおして、自分と地域の未来を創造する学びを展開
 各科の学びの成果をもとに協働的な探究を実施

- ・各専門科（農業科・商業科・工業科）の科目を十分に履修し、専門性を確保
- ・学校設定科目「産業基礎」で農業・工業・商業の枠を超えて産業を学ぶ
- ・生徒の進路、興味関心にあわせたコース選択制で専門性を深化させ、進路を実現
- ・他の専門教科を履修し、専門性を強化
 （例）農業科の生徒が商業科のマーケティングを履修し農業経営に活かす

- ・学校設定科目「みらいデザイン（仮称）」と「総合的な探究の時間」で、校内・校外でのすべての学びを探究活動に統合
- ・学校を飛び出してのアクティブな探究活動を可能にする教育課程
- ・探究活動の成果を「総合型選抜試験」に活用する進路支援
- ・専門科目を含めた履修による幅広い進路選択の実現

＜専門科と普通科、専門科間の連携により新たな価値を発想＞

専門科の学びで得た農業・工業・商業・環境などの視点

探究活動で得た芸術・歴史・福祉・国際などの視点

- 単位制の利点を活かした学びを展開
 他の単位制高校の授業が履修可能
 校外学習、校外活動の単位認定（ボランティア、大学の講義、国際交流など）
- 全学科でデュアルシステムを実施（校外での実践的な学び）
- 世代を超えた交流学习（中学校との合同探究発表会、出前講座、公開講座など）

地域の人々と共に学び、地域の未来を共に創る

- 企業、自治体、大学、研究機関、関連団体等で構成する連携会議の設置
- 学校と地域をつなぐ「地域連携コーディネーター」の常駐
- 地域との協働による生涯学習の拠点づくり

須坂新校 再編実施計画に係る学校像について（これまでに出された意見）

	協議会からの意見・提案	再編・整備計画【二次】	懇話会で出された意見	両校からの意見
育てる生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高い志を持ち、自ら自分の進路を切り拓いていく生徒 ○ 地域の良さを知って、地域の活性化に貢献できる生徒 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域課題と向き合い、納得解を導き出す力や論理的に分析・思考する力、新しい価値を発想・創造する力を持つ生徒 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集団適応、コミュニケーション力が高い生徒 ○ 自分で考えて自分で動ける生徒（主体性、自律性、自主性）、目標・目的をしっかり持っている生徒 ○ 自分の未来を自ら形成する人間力を持つ生徒 ○ 自ら意思決定して行動できる生徒 ○ 自分の力で課題を発見し、解決できる生徒 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主体的に学習に取り組み、実社会の課題と向き合い、未来を創造する力をもつ生徒 ○ 予測困難な社会を生き抜くため、課題発見解決能力をもつ生徒 ○ 他者との協働・コミュニケーションを図り、未来を切り拓いていく力を持つ生徒 ○ 自らのキャリアをデザインできる生徒
目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○ いろいろな人が集まり様々な議論を展開し、創造的な新しい発想や価値を生み出す学校 ○ きめ細やかな進路、学びのコースがある「総合技術高校プラス普通科」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新しいタイプのコミュニティデザイン高校 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 交流授業や学校生活の中で異なった考え方のの人々と交流し、新たな価値を生み出せる学校 ○ 多様な分野を知り、つなぎ、新たな価値を生み出せる、人やアイデアをつなぎ、新たな価値を生み出せる学校 ○ いろいろな人とつながる、いろいろなことを学ぶ、研究するのは楽しい、ということを楽しむ高校。高校は生涯学習の出発点 ○ 時代の変化に対応でき、新しいことを取り入れることができる学校 ○ 生徒が自ら目的・目標を持ち、生徒自らが育つ学校 ○ 生涯学習の拠点となるような学校 ○ 生徒のキャリアデザインをサポートできる学校 ○ 主体的な経験ができる場面を数多く用意した学校（部活動・生徒会活動以外にも） ○ 育てたい生徒が決まれば、目指す学校像が見える ○ 目指す学校像は不変のものではなく、時代の要請により変化するもの 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 専門学科と普通科の連携や他者との協働から新たな価値を生み出し、未来を創造していく力を育む ○ 地域をフィールドとした探究的な学びを实践し、課題発見解決能力を育む ○ 学科・教科の横断や地域連携を取り入れた新しい学びをとおして、キャリアをデザインする力を育む
学び・カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今までの普通科の学習領域にとらわれない特色ある魅力的なカリキュラム ○ 実践的な就業体験をものづくり産業以外に拡大・充実させる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合技術高校と新たな普通科（地域課題に着目した実践的な探究活動に取り組む学科）の特徴を活かし、ここの生徒の可能性と能力を引き出す新たな学びのシステムの構築 ○ 大学や地域との連携・協働や先端技術の活用により、地域を創造し続けるための新たな学びの創出 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 週の1日は探究に使えるなど、まとまった時間の中で自分の興味を深掘できる時間を持つ。興味あることを思いきりできるという環境は強み ○ 普通科の生徒が選択科目として他の専門学科の単位が取れるようにすること、普通科でのデュアルシステムの実施 ○ IT、情報システム、プログラミングを学べる学科があるとよい ○ 学年を超えたコミュニケーション、学年間の連携を進めた学習活動、異年齢での学び ○ 地域課題を解決できる探究的な学びができる学科間連携、地域の課題は地域の資源 ○ 専門的な学びを多くの生徒が共有し、様々な科目が選択できる ○ 情報教育をこの機会に充実させる必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学科・教科の枠を超えた探究的な学び ○ 地域をフィールドとした探究活動 ○ ICTの活用とコース制による専門性の深化 ○ 学科間連携の充実
地域連携・シニアム	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地元企業と深く結びつき、実学の部分を企業が担い、地元で育てたい生徒を地元が育てる ○ 地域（市町村）とパートナーシップ協定や連携協定を結ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地元の企業や自治体との協働によるデュアルシステムを地域の人々が生涯にわたって学び、成長し続けるためのプラットフォームに発展させる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地元の企業や自治体との連携が鍵。デュアルシステムなど、現在の須坂創成高校の取組を継承・発展させる ○ 商品開発やスマート農業など、地域の人と一緒に学ぶ ○ 地域の専門的知識を持った人が教えることもあってよい 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域をフィールドとした学びを推進するコンソーシアムの構築 ○ 地域連携コーディネーターの設置 ○ デュアルシステム、共同研究、共同開発等の実施
学びの環境・その他			<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校内にとどまらず色々なバックグラウンドを持つ人々と連携、交流することは非常に有意義 ○ 多様な分野を知り、つなぎ、新たな価値を生み出せる、人やアイデアをつなぎ、新たな価値を生み出せる人材が育つ場所になるとよい ○ 専門性を活かして取り組める文化活動部（プログラミングや機械工学、起業、農業など）が充実することも、学校の魅力になる ○ 地域に開かれ地域の方も一緒に学ぶことができる学校 ○ 地域にこだわるよりも社会とのつながりを持つことが大切。学校外に活動を求める必要性を持たせる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域との協働による生涯学習の拠点